

様式(細則5-2)

平成23年2月14日

浜田市議会議長 牛尾博美 様

議員名 笹田 卓



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1、期間 平成22年10月20日(水)～22日(金)

2、視察又は訪問先 千葉県銚子市、千葉県流山市

3、調査経費 54,748円

#### [内訳]

47,298円 旅費運費(宿泊費一泊含む)

7,455円 宿泊費

4、調査研究活動の概要

別紙のとおり



2010年10月21日(水)

●千葉県銚子市

○市民病院の再生事業について

○老人憩いの家、地域福祉センターの活動状況について

○マリーナ施設について

2010年10月22日(木)

●千葉県流山市

○多機能携帯電話(スマートフォン)の導入について

○市民病院の再生事業について

財政支援の限界のため、休止された市民病院をどのように再生させたのか？を伺いに行った。

2008年に市民病院が休止となり、そのため市長も失職した。新たな市長が市民病院再開をマニフェストに掲げ、当選し市民病院再生に着手。

しかし、一度休止した市民病院の再生には様々な問題が感じられた。市民が望んで再開された市民病院だが一度離れた市民(患者)が帰ってこない現状は寂しいと感じた。2年休止すると市民もかかりつけの病院が他にできたのだと推測する。今後の復活に期待するが厳しい状況は続きそうだ。

浜田市にある医療センターとは全く違い、銚子市は市民病院として財政支援を行っている以上、財政の厳しい市で市民病院を維持していくのは難しいのではないかと感じた。

○老人憩いの家、地域福祉センターの活動状況について

老人憩いの家、地域福祉センターとは市民の60歳以上の方が無料で利用できる施設で利用時間が午前9時から午後4時までで送迎も行われている。飲酒は

禁止だがカラオケや浴場もあり、視察時は将棋を差す方、カラオケを歌う方、お風呂に入る方などたくさんの方が楽しんでおられた。

管理運営はNPOと株式会社がそれぞれ銚子市から指定管理者として委託され運営されていた。指定管理料が年間約1300万円で高齢者にとっては楽園のような場所だと感じた。

浜田市にもさまざまな意見を聞き、このような施設があっても面白いと感じたが財政が厳しい中、無料というのは継続できないのではないかという不安もある。いずれにせよ浜田市は高齢者率が高いので浜田市には浜田市のやり方で何かしらの憩いの場所が必要だと感じる。

### ○マリナー施設について

銚子マリナーに視察に伺ったが時間が10分しかなくはなしがあまり聞く事ができなかった。

平成22年9月の定例会で長浜地区の貯木場の再利用として市民マリナーとしてできないか?という質問をさせて頂いたがそれも踏まえていろいろ話を聞き勉強したかった。海面、基部からしても長浜地区で市民マリナーとして再利用することか可能だと感じた。

本当の問題は管理運営だと考えているが銚子マリナーのように多数地元企業が手を組んだ会社を作り、管理運営するのが望ましいのかもしれない。

### ○多機能携帯電話(スマートフォン)の導入について

流山市のスマートフォン導入は議場での賛否の態度を市民に明確にするためのものだった。スマートフォンは今後、いろいろなことができるのではないかという期待も感じた。流山市でもどのように活用していくのが今後の課題だということだった。

しかし、流山市と浜田市では財政面に大きな差があり、スマートフォン導入は今すぐということはないし、現在の浜田市にはあまりメリットがないのではと感じた。

それよりも浜田市も議会基本条例と自治基本条例の施行については喫緊の課題だと認識している。議会基本条例や自治基本条例のついでの施行までの経緯の話が勉強になった。議会のことは議会が決め、自治のことは自治体が決めるというシンプルなお互いの切磋琢磨から基本条例を策定されたようだ。

これらの経験を今後の活動に必ず活かしたい。

以上